

事前評価調書

I 事業概要						
事業名	治山事業（小規模治山事業（治山施設機能向上））					
地区名	新城市川路字東郷					
事業箇所	新城市川路字東郷					
事業のあらまし	治山施設を整備することにより、荒廃溪流を保全し、山地災害を防止する。					
事業目標	【達成（主要）目標】 流路工を設置し、荒廃溪流の保全を図る。					
事業費	事業費		内訳			
	8百万円	■工事費	8百万円、□用補費	百万円、□その他	百万円	
事業期間	採択予定年度	平成25年度	着工予定年度	平成26年度	完成予定年度	平成26年度
事業内容	流路工を設置する。					
II 評価						
①事業の必要性	1) 必要性	当該地域では、溪流の荒廃が進み、山地災害の発生の恐れが懸念されている。地元からの事業実施の要望も強いいため、治山事業の実施が必要である。				
	判定	A	A：現状の課題又は将来の予測から事業の必要性がある。 B：現状の課題又は将来の予測が十分把握されていない。			
		【理由】 山地災害の未然防止を図る上で、当該地域における事業実施が必要であるため。				
②事業の実効性	1) 事業計画	平成26年度に工事を8百万円で行う計画となっている。 事業期間は平成26年度で、総事業費は8百万円の予定である。				
	2) 地元の合意形成	合意済み				
	判定	A	A：事業計画の実効性が期待できる。 B：事業計画の実効性が期待できない。			
【理由】 地域住民の生命・財産を守る上で事業実施が必要である。						
III 対応方針						
妥当	事業実施が妥当である。：上記①及び②の評価がすべてA判定であるもの。 事業実施は妥当でない。：上記以外のもの。					
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容						
■対象（事業完了後5年目） □対象外						
【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】						
【主な評価内容】						